

来週の市場とレート予想					
	1/15（月）	1/16（火）	1/17（水）	1/18（木）	1/19（金）
無担保O/N	△0.086%～0.001%				
銀行券	+ 2,100	+ 2,000	+ 2,000	+ 1,000	ト ン
財政他	△ 25,200	△ 5,000	+ 2,000	△ 23,000	+ 1,000
資金需給	△ 23,100	△ 3,000	+ 4,000	△ 22,000	+ 1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還 （3M） 国債発行・償還（2年）	国債発行（40年）		国債発行（5年）	
オペ期日	共通担保（全店） △ 3,000 CP等買入 △ 400 国債補完供給 + 400				被災地支援 △ 200
オペスタート	国債買入 + 9,700 共通担保（全店） + 1,600	国庫短期証券 + 17,500 CP等買入 + 2,000			被災地支援 ト ン
（日本）	日銀支店長会議で、 黒田総裁があいさつ 地域経済報告（1月） マネーストック（12月）	企業物価指数（12月） 第3次産業活動指数（11月）	機械受注（11月）		
（海外）	米 株式・債券市場休場	米 NY連銀製造業景況指数 （1月）	米 地区連銀経済報告 米 鉱工業生産（12月） 米 NAHB住宅市場指数（1月） 米 シカゴ連銀総裁、講演 米 クリーブランド連銀総裁、講演 欧 ユーロ圏消費者物価指数 （12月 改定値）	米 住宅着工件数（12月） 米 フィラデルフィア連銀 製造業景況指数（1月） 米 新規失業保険申請件数 （13日終了週）	米 暫定予算期限切れ

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.025 ～ 0.030
SPOT 2M	△0.025 ～ 0.040
SPOT 3M	△0.020 ～ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ～ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は年初370兆1,200億円から始まった。その後は、9日に税・保険揚げを主因に369兆2,100億円まで減少し、週末となる12日は源泉税揚げ・国債の発行等により、367兆100億円まで減少した。
無担保コールON物金利は、年末に調達を控えていたビッドサイドが戻ったことで4、5日は△0.04%台で取引された。9日以降は調達意欲が徐々に強くなり、△0.03%台での取引が中心となった。今積期間最後の週末となる12日はより一層地合いが強まり、△0.02%台での取引も多く見られ、加重平均金利(速報)は△0.027%となった。ターム物は、1W物や積最終日までの期間を中心に△0.04%台～0.02%台での出合が散見された。
9日の日銀による国債買入オペのオファー額は、残存期間10超25年以下、25年超が前回オファー対比それぞれ100億円減額となった。なお、残存期間10超25年以下の減額は2016年12月28日オファー以来約1年ぶりであった。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ～ 0.000
TDB 3M	△0.180 ～ △0.100
現先 (on/1w)	△0.100 ～ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約7,000億円で、週間償還額の約3,100億円（金融機関・ABCP除く）を大きく上回った。四半期末で残高を調整した企業の復活発行により、活況なマーケットとなった。鉄鋼・商社・電気機器といった業態から、大型発行案件が連日実施された。発行レートについては、引き続き投資家の運用ニーズが強く、マイナスから0%近辺の出合いとなった。
11日、CP等買入オペが予定通り2,000億円でオファーされた。オファー金額が前回比で3,500億円減額し、買入対象銘柄も相応に増えた事もあって、按分レート0.000%、平均レート0.004%と前回（按分レート△0.005%、平均レート△0.002%）と比較し上昇する結果となった。
来週の償還額は、約3,200億円となっている。五・十日発行と一般事業法人の復活発行が見込まれたため、償還超となる見通し。発行レートは、投資家の運用ニーズが強くマイナスから0%近辺での出合いを予想する。
CP等買入オペが、17日にオファー金額2,000億円程度で予定されている。

<TDB>

10日に行われた国庫短期証券6M第731回債の入札は、最高落札レート△0.1243%（前回債△0.1382%）、平均落札レート△0.1324%（同△0.1442%）と前回からマイナス幅を縮小。また、11日に行われた3M第732回債も、最高落札レート△0.1162%（前回債△0.1373%）、平均落札レート△0.1251%（同△0.1484%）と前回債からマイナス幅を縮小した。週末のセカンダリー市場は、新発3M物が△0.14～△0.13%の出合。入札水準からやや買い進まれた。
来週は17日に1Y、18日に3Mの入札が予定されている。

<レボ>

足許GCは年初△0.075～△0.08%から始まった。以降短国の発行が続いたがレート水準に大きな変化は無く、△0.075～△0.085%の出合い。新積み期入りとなる16日受渡しでは、国庫短期証券買入オペがオファーされ△0.09%台まで低下した。
SC取引では10年349回債、5年134回債の引合が多く、10年349回債は入札日前日△0.40%台後半から△0.50%台半ばの出合。5年134回債は11日の国債買入オペ後△0.40%台で一部取引された。他2年381・382・383回債、5年131・132・133・134回債、10年336・338・340・341・342・346・347・348・349回債、20 年161・162・163回債、30年55・56・57回債などに引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。